



小木曾 健 Ogiso Ken

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 客員研究員

講演やメディア出演を通じ、ネットで絶対に失敗しない方法を伝えている。全国の企業・学校などで2,000回以上の講演。著書に『13歳からの「ネットのルール」誰も傷つけないためのスマホリテラシーを身につける本(コツがわかる!ジュニアシリーズ)』(メイツ出版、2020年)ほか多数

## SNS世論の正体

前回(2026年4月号)は誰もが気になる「ネット炎上」のお話でした。今回は最終回として、私が今、最もお伝えしたいテーマであり、世の中の多くの方が違和感をもっている(かもしれない)「ネット・SNS世論」の正体についてのお話です。

### 誰もがメディアに？

Windows95をきっかけに、インターネットが一気に普及したあの日からもう30年。黎明期のネット掲示板、テキストサイトやブログの流行、またスマホが普及してからはSNSやニュースサイトへのコメントなど……この30年は、誰もが自由に自分の意見を発信できるようになった「変化の時代」でした。

今や、マスメディアの報道に個人が対等な立場で反論し、多くの支持を集めるケースも増えています。マスコミ主導の世論形成というシステムが崩壊し、情報の「民主化」「平等化」が進んだ30年ともいえるでしょう。

ですが、その民主化は手放しで喜べることだったのか、といえは……実際はそんな単純な話ではありません。情報の民主化はいまだ道半ば、まだ混乱期のような状況にあり、コレを放っておくと今後、社会全体で「無駄なコスト」を長期にわたって支払い続ける可能性もあります。私たちは今、とても重要な分岐点にいるのです。

### その違和感、正しいかも

ネット炎上やSNSでの論争を目にした際、

「なぜこんな些細なことで炎上するのだろう」  
「なぜこんな妙な考えが支持されるのか」

と違和感を覚えることはありませんか？安心してください。その違和感、おそらく真っ当です(というケースが山ほどあります)。

そもそも私たちの多くは、ネットやSNSに頻繁に投稿していません。投稿する際も、その内容の大半は日常の出来事や趣味に関するものでしょう。

一方、ネットで目にする極端な意見、妙な主張の多くは、日頃からせっせと自分の主張・自説をSNSに投稿し、知らない人にかみつき、殴り合っているような「かなり限られた人たち」による投稿だったりします。

仮にその主張が誤っていたり、視野が狭かったり、そもそも内容自体が素っ頓狂だったとしても、困ったことにそういった「とがった主張」は目立ちやすく、ネットで拡散しやすいのです(無論すべての拡散投稿がそうなのではなく、あくまで多くの人々が違和感を覚えるような投稿の話です)。

現実世界の「総人数」と比べれば、ネットに投稿されている意見の数なんて微々たるものですから、代表性(調査などで、サンプルに偏りがないかどうか)という意味でも、「ネットの意見」＝「私たち全体の平均値」と見るのは不自然な解釈と言えます。

つまり皆さんが違和感を覚えるような「ネットで称賛されている妙な主張」が、社会における主流意見である可能性は低く、皆さんが抱いた違和感は真っ当である、というケースは十分起こり得るということです。

またネットで目にする主張には、「批判」「否定」要素が多いのですが、実はこれにも明確な理由があります。ある事象に対して「問題ない」「どっちでもいい」「興味ない」と考える人が、わざわざその意見をネットに表明……しませんよ

ね。皆さんそこまでヒマじゃない。批判的な意見を持たない人は何も投稿しないケースが多く、その姿は見えません。

もしネットで批判一色だったとしても、そこには姿の見えない肯定意見が存在している可能性がある、これもぜひ覚えておいてください。

## 非実在型ネット炎上

ネットの「世論」は、全体意見のごく一部。これが事実であり、ネット世論が現実と乖離かいりしがちなのはネットの特性によるものですが、なぜか新聞・雑誌・テレビ業界には、ネット世論＝一般的な平均意見だ、と誤解している方がいて、事態をややこしくしています。その典型として「非実在型ネット炎上」という問題があります。

昨今、企業広告などに「差別だ」「女性蔑視だ」といったクレームがつくことは珍しくありませんが、仮にそれが、非常に偏った、ごく一部の人達による、言い掛かりのようなクレームだったとしたら……普通なら、世間の同意も得られず終息するでしょう。ところが、消えかけた火種に気付いたマスメディアが「炎上している！」と報じてしまうと、起きてもない炎上が「起きた」ことにされてしまう。これが非実在型ネット炎上です（最近では東洋水産がこの被害にあっています。詳しくはネットで「赤いきつね炎上」と検索してみてください）。

もし皆さんが「こんな妙な言い掛かりでネット炎上が起きるの？」と違和感を覚えた際は、まず「非実在型」を疑ってみてください。

## 極論・珍説・ワガママ

**ネットには、1人の意見も1万人の意見も同列に並べ、同等の拡散力を与える特徴があります。**

これは少数意見も拾い上げるネットの「良い一面」でもあるのですが、同時に、実社会では相手にされないような極論・珍説・ワガママも、ネットなら大手を振って闊歩かつぽできるという困っ

た現象も引き起こしています。

その極論・珍説・ワガママを、うっかり社会が「社会の総意？」と誤解してしまうと、誰もが「おかしいな」「そうだった？」と思いながら、世の中が妙な方向に進んでしまう……これは既に起きている現象です。

私たちがネットの特性をしっかりと理解し、情報を冷静に眺め、適切な距離を保つことで初めて、本当の意味で情報の民主化、つまり、声が大きいだけの極端で偏った意見が「声がデカいだけですね、はい、解散解散」とちゃんとスルーしてもらえる世の中になるはず。衰退が叫ばれる既存のマスメディアには、是非この情報の民主化を推し進める新たな役割を担って欲しいですし、そうすることで意義のある存在として生き残れるのでは、とも考えています。

**ネットには、物事を可視化する、見えにくいものを見えやすくする、という別の特性もあります。**

企業の隠蔽いんぺい、政治家のお人柄がお天道さまにさらされ、見逃されてきた誤報が訂正され、立場の弱い人にスポットライトが当たるようになったのは、このネットの特性のお陰だと言えます。

ただ同時に、顔の見えない相手を罵倒ばとうし、傷つけ、ときに死に追いやるような人たちも可視化しました。唯一の救いは、そんな人たちは社会全体から見ればごく少数であるということ。誰もが情報発信という武器を持つようになった今だからこそ、その火力や本質を理解し、皆で力を合わせ、ネットを活かし、世の中を良くする方向に進んでいきたいものです。

## 最後に

10カ月に渡り本連載にお付き合いくださった読者の皆さま、本当にありがとうございました。いつかまたお会いできる日が来ることを願いつつ、本連載の執筆を終えたいと思います。